

| | |
|---|--|
| バリダマイシン液剤 バリダシン液剤 5 | 取扱メーカー： 協友アグリ、サンケイ*、北興、 住友化学、琉産 原体メーカー： 住友化学 |
| 成分： バリダマイシン〔抗生物質〕……………5.0% その他 PRTR 該当成分： ボリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテル（PRTR・1種）…～3.0% | 性状： 緑色澄明液体 毒性： 普通物 消防法： — |

【品目特性】……………

- バリダシン粉剤DLの項参照。
- ユニークな作用機構（糖代謝系酵素阻害）により細菌に活性を有する。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

〈水稲〉

- バリダシン粉剤DLの項参照。
- 〈ばれいしょ青枯病防除剤として〉
- 初発前の早めからの散布で菌の増殖を抑制し、発病・病勢の進展を遅延させ、収量の減少に歯止めをかける。
- 多発圃場では登録のある土壌くん蒸剤と併用処理をする。

〈ももせん孔細菌病防除剤として〉

- 萌芽初期からの早目の散布でより優れた防除効果を発揮する。

〈かんきつかいよう病防除剤として〉

- 感染初期からの散布で、病原細菌の増殖を抑制して防除効果を発揮する。
- 他剤と輪番使用をするとう有効。

〈キャベツ黒腐病・軟腐病防除剤として〉

- キャベツ葉内の病原細菌量が増殖する結球初期の散布により、優れた防除効果を発揮する。

〈だいこん軟腐病防除剤として〉

- 早めの散布をし、他剤との輪番使用をする。

〈ばれいしょに使用する場合〉

- 軟腐病に対しては、他剤と輪番使用をするとう有効。
- 切断した種いもを処理する場合、切断面が乾いた後に行う。
- 種いもへの散布の場合、床に広げた種いもに均一に散布する。

- 処理した種いもはよく風乾してから植付ける。

〈ふきに使用する場合〉

- 種茎浸漬処理と植付後の灌注を組み合わせる。

〈はくさい軟腐病防除剤として〉

- はくさい葉内の病原細菌量が増殖する結球初期よりやや早めの散布で、より優れた防除効果を発揮する。

〈にんにく春腐病防除剤として〉

- にんにく葉内の病原細菌が増殖する結球初期よりやや早めの散布で、優れた防除効果を発揮する。

〈にら葉腐病防除剤として〉

- 本剤は、夏期株養成期に発生する芽枯病を防除対象とする。

- 下葉の黄化症状が認められたら直ちに株全体に十分量散布する。また高温多湿条件下で多発生するので、降雨後、直ちに散布する。

〈たまねぎ腐敗病防除剤として〉

- たまねぎ葉内の病原細菌量が増殖する肥大期よりやや早めの散布で、より優れた防除効果を発揮する。

〈だいず葉焼病防除剤として〉

- 感染初期からの散布で病原細菌の増殖を抑制して防除効果を発揮する。

【薬効・薬害等の注意】……………

- ボルドー液との混用はさける。
- 稲の苗立枯病に使用する場合、白絹病菌、リゾクトニア菌による苗立枯病には有効であるが、その他の菌による苗立枯病には効果が劣るので注意する。
- レタス、非結球レタスに使用する場合、すそ枯病の防除を主体とし、多発性の腐敗病には効果が劣ることがあるので注意する。
- 多発性の腐敗病、軟腐病には効果が劣ることがある。
- 適用外作物（きく、トマト）への薬害などの注

意は「薬害注意事項解説」を参照。

●共通注意事項 8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

用いない。

●共通注意事項 6. 街路・公園・堤とう等で使用する場合の注意事項を参照。



【安全対策上の注意】

●本剤で処理した種いもは食用や動物飼料として

【適用と使用法】

| 作物名 | 適用病害名 | 希釈 倍数 | 10 a 当り 使用液量 | 使用時期 (収穫前) | 本剤の 使用回数 | 使用方法 | バリタマイシンを含 む農薬の総使用回数 |
|---------------|--|---------------|---|-----------------|----------------|-------|------------------------|
| も も | せん孔細菌病 | 500 倍 | 200～ 700 ℓ | 7 日 前 まで | 4 回以内 | 散布 | 4 回以内 |
| かん きつ | かいよう病 | | | 14 日 前 まで | | | |
| 稲 | 紋枯病 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) もみ枯細菌病 | 1000 倍 | 60～ 150 ℓ | | | | |
| | 紋枯病 | 300 倍 | | | 25 ℓ | | 散布* |
| 稲 (箱育苗) | 苗立枯病(白絹病菌) 苗立枯病(リゾクトニア菌) | 1000 倍 | 育苗箱 (30×60× 3cm, 使 用土壌約 5 ℓ) 1 箱当 り希釈液 500 ml | は種時～ 発病初期 | 1 回 | 灌注 | |
| ばれいしよ | 黒あざ病 | 200 倍 | — | 貯蔵前又 は植付前 | | | 瞬時～10 分間種いも 浸漬 |
| | | | 種いも 100 kg 当り 2.5～3 ℓ | | 種いも散布 | | |
| | 青枯病 軟腐病 | 500 倍 | 100～ 300 ℓ | | 3 日 前 まで | 6 回以内 | 散布 |
| きゅうり | 苗立枯病(リゾクトニア菌) | 800 倍 | 3 ℓ/m ² | は種直後 | 1 回 | 灌注 | 1 回 |
| キャベツ | 株腐病 黒腐病 軟腐病 | | 100～ 300 ℓ | 7 日 前 まで | 5 回以内 | 散布 | 5 回以内 |
| はくさい | 軟腐病 黒斑細菌病 | | | 3 日 前 まで | 3 回以内 | | 3 回以内 |
| すもも | 黒斑病 | | 200～ 700 ℓ | 14 日 前 まで | 4 回以内 | | 散布 |
| だいこん | 軟腐病 | 100～ 300 ℓ | | 21 日 前 まで | | | |
| たまねぎ | 腐敗病 軟腐病 | | 3 日 前 まで | | | | |
| レタス 非結球レタス | すそ枯病 腐敗病 軟腐病 | | 800 倍 | 7 日 前 まで | 3 回以内 | 3 回以内 | |

* 乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用する。

| 作物名 | 適用病害名 | 希釈 倍数 | 10 a 当り 使用液量 | 使用時期 (収穫前) | 本剤の 使用回数 | 使用方法 | パリタマイシンを含 む農薬の総使用回数 | | |
|-----------------|--------------------|----------|--|---|----------------|------|--|--|---------------------------|
| しょうが | 紋枯病 | 800 倍 | 100～ 300 ℓ | 14 日 前 まで | 4 回以内 | 散布 | 4 回以内 | | |
| みつば | 立枯病 | | | 育苗期 | 1 回 | | 3 回以内 | 4 回以内 (育苗期は 1 回以内、 移植後は 3 回以内) | |
| | | | | 移植後 但し収穫 21 日 前 まで、伏 せ込み栽 培は伏せ 込み前ま で | 5 回以内 | | | | 5 回以内(種 茎浸漬は 1 回以内) |
| | | | | 7 日 前 まで | | | | | |
| にんにく | 春腐病 | | | 3 ℓ/m ² | 7 日 前 まで | | 5 回以内 | 灌注 | 5 回以内(種 茎浸漬は 1 回以内) |
| ふき | 白絹病 | — | 植付時 | 1 回 | 30 分間 種茎浸漬 | | | | |
| にら | 葉腐病 | | 100～ 300 ℓ | 刈揃え前 まで | 3 回以内 | 散布 | 3 回以内 | | |
| てんさい | 苗立枯病(リゾクトニア菌) | 400 倍 | 3～6 ℓ /m ² | 育苗中期 | 1 回 | 灌注 | 1 回 | | |
| だいず えだまめ | 葉焼病 | 500 倍 | 100～ 300 ℓ | 7 日 前 まで | 3 回以内 | 散布 | 3 回以内 | | |
| ねぎ | 苗立枯病 (リゾク トニア菌) | 400 倍 | 6 ℓ/m ² | は種時 | 1 回 | 灌注 | 2 回以内(は 種時の灌注 は 1 回以内、 散布及び株 元散布は合 計 1 回以内) | | |
| | 軟腐病 | 500 倍 | 100～ 300 ℓ | 21 日 前 まで | | 散布 | | | |
| | 白絹病 | | | | | 株元散布 | | | |
| はぼたん | 黒腐病 | 800 倍 | 1 ℓ/m ² 0.5～ 1 ℓ/m ² | 発病初期 | 8 回以内 | 散布 | 8 回以内 | | |
| 西洋芝 (ベントグラス) | 葉腐病(ブラウンパッチ) | 1000 倍 | | | | | | | |
| 日本芝 | 葉腐病(ラージパッチ) | 500 倍 | | | | | | | |